

みどころいっぱい鳥取砂丘

①鳥取砂丘ジオパークセンター



鳥取砂丘の生い立ちを、標本・映像を用いて展示・紹介しています。ジオガイドが常駐しており、鳥取砂丘の見所や散策コースを案内しています。また、風紋発生風洞では、風紋のでき方を観察することができます。
(問)0857-22-0021

②火山灰層露頭



約5万5千年前に大噴火した大山火山の火山灰と、その上下の火山灰質土壌が観察できます。これらの下に見える砂層が古い砂丘(古砂丘)であり、上にある砂層が現在の砂丘(新砂丘)です。

③鳥取砂丘砂の美術館



世界初の砂像展示専門の美術館。毎年テーマを変えて、世界トップレベルの彫刻家による作品を制作展示しています。鳥取砂丘周辺の観光案内及び地元特産品を集めた売店も併設されています。
(問)0857-20-2231

④弁天宮(多鯨ヶ池)



多鯨ヶ池(たねがいけ)には、宮ノ下(現鳥取市国府町宮ノ下)の長者に仕えていた「お種」が、蛇身に化けて島の柿をとったという「お種伝説」が伝わっています。池の北岸の大島には、水を司る弁天さまが祭られています。

⑤ラッキョウ畑



鳥取砂丘の一部(福部砂丘)は、日本有数のラッキョウの生産地です。約120ヘクタールの畑は、10月下旬から11月上旬にラッキョウの花が咲き、赤紫色のじゅうたんを敷き詰めたような美しい光景が広がります。

⑥五輪石塔群



中世の頃、砂丘の背後に湯山千軒、多鯨千軒といった大集落があったという伝説が伝わっています。それを証明するかのような大量の五輪塔が、湯山の砂丘地の地下から発見され、ここに集められています。

⑦弥長神社



この神社には、祭神として神功皇后が祭られています。神功皇后が三韓出兵の帰国の折に、この近くに寄港したと伝えられています

⑧一ツ山離水海食洞



かつての海岸線の崖が侵食を受けてできた洞窟です。縄文時代前期の海面が高かった頃(縄文海進時)にできたと考えられています。その後の海退と砂丘の形成によって陸上に取り残されました。

おすすめ:宿院義般頭彰碑



安政6年(1859)から、福部砂丘南側の湯山池の干拓が始まりました。この事業を計画したのが地元在住の宿院義般(しゅくいんぎはん)です。多鯨ヶ池から水路を掘って水とともに砂を流し、砂丘畑の灌漑と湯山池の埋め立てを行いました。

おすすめ:直浪遺跡



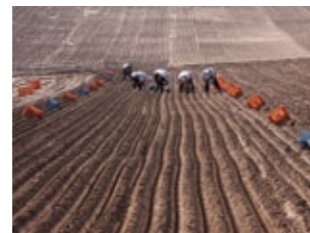
1946年に発見され、1955年、1976年などに発掘調査が行われました。この調査で、縄文時代前期から古墳時代までの土器などが多数発見されています。福部砂丘の南側にあった湯山池の周辺が、人々の生活の拠点になっていたことが考えられます。

ジオコラム①

砂丘ラッキョウの誕生

砂丘地は、各地で江戸時代から新田の開拓が推し進められましたが、福部町の砂丘は海拔が約70メートルもある丘であり、飛砂が激しく、水の確保が困難なため、開発が大きく遅れました。大正3年に浜本四方蔵が、福部の砂丘地でのラッキョウ栽培に成功し、大正6年には佐々木甚蔵らとともに砂防の植林に全力をあげ、産業組合ができ、栽培面積が拡大しました。昭和38年には、農業構造改善事業により、山成り開墾という起伏のあるままの傾斜畑のリスク管理が施され、農道は舗装され、機械やトラックの利用が可能になり、日本有数のラッキョウ産地として発展しました。

現在では、ラッキョウの花の咲く10月下旬から11月上旬には、「らっきょう花マラソン」や「らっきょう花フェア」なども行われ、観光やスポーツの場所としても楽しまれています。



ジオコラム②

多鯨ヶ池の成因と湯山池の干拓

多鯨ヶ池は、砂丘が谷水をせき止めてつくった「せき止め湖」です。江戸時代の古地図や文献では、北岸の大島は島として描かれていますが、現在では押し寄せる砂によって陸続きになりました。以前の多鯨ヶ池はもっと大きかったことがうかがえます。また、多鯨ヶ池の東に位置していた湯山池は、安政6年(1859年)に干拓が始まっています。飛砂のために田畑が埋まり苦労していた農民たちを救うためには、植林とともに湯山池を干拓し新田を作ること考えたのが宿院義般です。

多鯨ヶ池の水位が湯山池よりも16メートルほど高いことを利用し、トンネルを掘りその水流に砂を流して湯山池を埋め立てる計画を立てました。そして、明治4年までに約50ヘクタールを埋め立てました。



①古い砂丘(古砂丘)の砂
②波の高いときは、潮をふいていくくじらのように見えることからくじら島と呼ばれています。(または亀島とも呼ばれています)